

平成 27 年度第 2 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「常陸川水門付近の湿生植物 ～水位調節と植物の変遷～」を実施しました。

開催日時：平成 27 年 4 月 25 日（土） 9 時 00 分から 17 時 00 分まで

開催場所：神栖市横瀬，常陸川水門付近の湿生植物帯

参加者：33名

平成 27 年度第 2 回の自然観察会は今年度最初の植物の観察会「常陸川水門付近の湿生植物」。霞ヶ浦の出口にあたるこの地域は江戸時代の利根川東遷から，近年の常陸川拡幅，常陸川水門の完成まで，その姿を大きく変えました。そのような歴史的経緯から，この地域は霞ヶ浦の湖岸に典型的なヨシ・カササゲの植生のほかに，外来の植物や海岸性の植物や山の植物など数多くの植物が見られます。

講師は植物の観察会でおなじみの福田先生。福田先生から行きの車中で，観察地での観察のポイントやぜひ観察したい植物の紹介，腰塚パートナーから常陸川水門の説明をして頂き，しっかり予習をすることができました。

昼食は神ノ池緑地公園で取りました。神ノ池は霞ヶ浦環境科学センターの迅速測図（明治 13～19 年）では大きなおむすび型の形をしていますが，鹿島開発により現在の形になったそうで，昔は貴重な水生植物の宝庫だったそうです。現在の神ノ池を見つめながら，過去の神ノ池を想像してみました。

昼食後はいよいよ常陸川水門付近の観察地に向かいました。常陸川と利根川に挟まれた観察地は大型の車両が入れず，常陸川水門の歩道を歩いて渡りましたが，歩道が狭く，怖く感じた参加者の方がいらっしやったことはおわびいたします。

常陸川水門の大きさに驚きながら，いよいよ観察地に到着。早速植物の観察を始めました。まず目に飛び込んできたのは黄色いきれいな花を咲かせたコメツブツメクサの群生。そしてカラスノエンドウとスズメノエンドウの中間の特徴をもつカスマグサ（“カ”ラスと“ス”ズメの間（ま）＋草），以後湿地草原を代表するカササゲやヨーロッパ原産でサラダに使用されるノジシャ，同じくヨーロッパ原産の食草でクレソンの名前で有名なオランダタガラシ，また海岸性植物であるマルバアキグミなどもみることができました。ハンノキやヤナギの仲間の河畔の樹木も多く，ヤナギの種類をめぐっては植物に詳しい参加者のみなさんが福田先生と一緒に考えている姿が印象的でした。

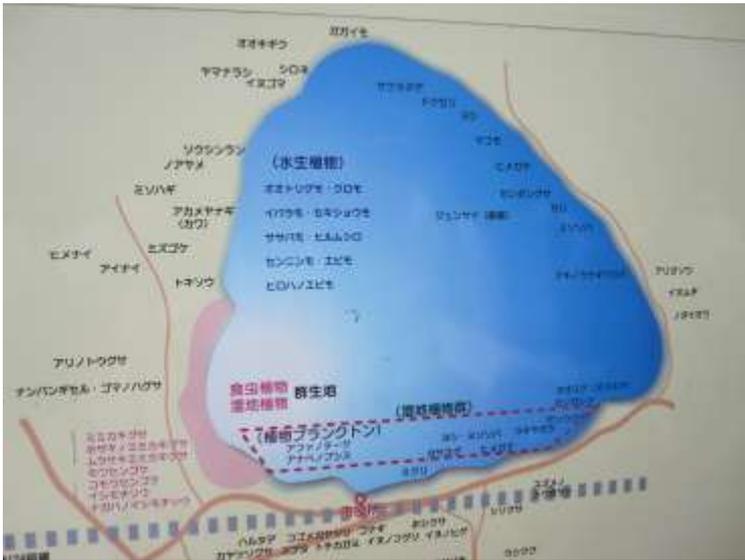
常陸川右岸と利根川左岸の両方を観察しながら，2 時間かけて観察したところ，記録票にまとめただけでも約 100 種類の植物を観察することができました。

帰りの車中では，福田先生から観察会の振り返りを行って頂き，復習もできました。福田先生には第 4 回自然観察会（つくし湖周辺のスダジイ林の植物）また秋の観察会でも講師をお願いすることになっています。また常陸川水門の資料を御説明いただいたパートナーの腰塚さん，植物の記録をまとめて下さった同じくパートナー有吉さん，また当日の運営に御協力頂いたパートナーの皆さん，そして参加者のみなさん，大変ありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

観察会の様子と観察した植物の一部を御紹介します。

(撮影・協力：パートナー・有吉さん)



常陸川水門を渡ります。

昔の神ノ池と現在の神ノ池（赤の破線）と過去の植生。



コメツブツメクサの群生。



レベルの高い植物談義に熱が入ります。



カサスガの群落（手前）とヨシ（奥）。



ノジシャがきれいな花を咲かせていました。

観察した植物はおよそ 100 種類でした。